

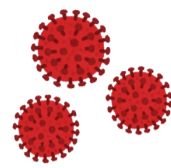
新型コロナウイルス感染症対策

新型コロナウイルス感染症に関して、小国公立病院、おぐに老人保健施設でのこれまでに行ってきた対応、対策について各部署よりご報告させていただきます。令和2年7月1日現在の報告内容になります。

ゆたあ〜と

新型コロナウイルスに関する 当院での対応について

小国公立病院 副院長
堀江英親



新型コロナウイルス感染症(COVID-19)に関して、当院での対応についてお知らせいたします。

現時点(2020年7月1日)でのまとめです。後日、修正や見直しされる可能性がありますのでご注意ください。

新型コロナウイルス感染症とは、2019年12月に中国の武漢で初めて報告された、新しいウイルスによる肺炎を主体とした感染症です。感染しても80%程度は軽症といわれ、5%程度は亡くなります。主な症状は「発熱」と「咳」です。重症化すると呼吸困難になります。特効薬(特

〜外来での感染対策・発熱外来について〜 (外来看護師長 河津 紀子)

外来では、コロナウイルス感染予防として 病院入り口での体温測定、2時間おきの定期的な換気、(次亜塩素酸ナトリウムによる)清掃、“思いやりシート”を設け座席間隔をあける、受診が集中しないよう診察予約時間の調整など様々な対策を行っております。また2020年2月25日に、発熱やかぜの症状のある方と、定期診察で来院される方との接触をさげ、感染リスクを減らす目的で『発熱外来』を開設し、平日の午後に行っております。

コロナウイルス感染症が疑われる場合だけでなく、発熱や風邪症状のある方も『発熱外来』にご案内し、診察を行っております。



発熱や風邪症状のある方は病院に電話予約をいれ、マスク着用のうえ指定された時間に受診頂くようお願い致します。

病院を受診することに対し、「病院で感染するか…」と不安を感じる方もいらっしゃると思いますが、受診が集中しないよう、時間帯を調整するなど対策を調整しておりますのでご安心下さい。

〜病棟での感染対応〜

(2階病棟看護師長 菊池勝子 3階病棟看護師長 安藤幸代)

新型コロナウイルス感染症に伴う感染拡大防止の為、

- 1) 入院患者様へのご面会を禁止とさせて頂いております。しかし、患者様の状態によって、主治医・病棟師長の許可した方に限り、部屋もしくは面談室での短時間の面会を実施しております。
- 2) 患者様の状態説明、退院前のカンファレンスでの来院依頼があった場合、案内があるまで指定の待機場所でお待ち頂いております。来院時には職員にお声掛け下さい。
- 3) 介護調査職員様・施設職員様との面談等は、許可制(事前連絡)で面談室での対応を行っております。
- 4) 病棟に来られる際には、入口にて検温と手指消毒をして頂きマスク着用をお願いしております。
- 5) 入院患者様家族の洗濯物等の受け渡しについて、随時対応が困難となってきた為、指定された曜日・時間をお願いしております。



【受け渡し日時】 火曜・金曜 15:00~18:00

ご理解・ご協力の程よろしくお願ひいたします。

しかしこの感染症は、半年の間に世界でも死亡されています。遅かれ、早かれ、小国郷にもやってくるでしょう。感染しないためには、まずはウイルスを体内に入れないことです。ウイルスがいる可能性が高いところ(感染者のいる地域や、密な場所など)には行かないように

呼吸状態が悪くなる場合は、酸素投与などが必要となります。入院が必要となり、さらに新型コロナウイルス感染症が疑われる場合、PCR検査などを受けることとなります。当院では、3月下旬から、数回のシミュレーションや訓練を行ってきました。実際に当院を受診された患者様も10数名、PCR検体採取が行われましたが、今のところ全員陰性でした。

別に有効な治療法は、まだありません。食事や水分が摂れ、呼吸状態も悪くなければ、特に治療せずに様子を見ます。

当院ではこれからも、住民、患者および職員の安全と安心のため、新しい情報を確認し、適切な対応を行っていきたく存じます。

病院を受診される場合は、まず電話でご連絡ください。発熱や呼吸器症状のある方は、新型コロナウイルス感染症ではなくても、午後の発熱外来で診察しています。病院入り口で、体温を確認する場合があります。

り、どんなに気をつけても100%防ぐ方法はありません。抵抗力を維持するために、適度な栄養と休養を取り、普段から自分の健康状態を整えておきましょう。

し、付着したウイルスは洗い落としたり、消毒しましょう。マスクをしたり、こまめな手洗いや生活様式が変わりつつあります。今までの生活様式が変わりつつあります。しかし、日常生活を続ける限り、



〜事務・受付の感染対策〜

(医事課 河津扶美)

感染拡大防止の為、以下の対策を行っております。

- ・ 院内対策会議開催の周知参加情報共有
- ・ 院内体制、対応マニュアル(事務分)づくり
- ・ 定時換気の院内放送
- ・ 1回/日の事務・受付周り環境清掃
- ・ 来院者の正面玄関での体温測定手指消毒
- ・ 窓口に飛沫防止カーテンを設置
- ・ 各取組への必要備品調達(非接触型体温計など)
- ・ 保健所との連絡・報告・調整業務
- ・ 国の情報収集システムへの日次・週次等報告業務
- ・ 新型コロナウイルス感染症関係公文書の収集・院内周知
- ・ 院内各部署との業務連携
- ・ 土日祝日対応の事務方待機(当番制)
- ・ 医療消耗品の管理
- ・ 国・県・医師会等が行う関係調査への回答



〜検査科の感染対策〜

(検査科 有住将尚)

私たちの臨床検査技師については、医師や看護師と比べると知名度が低い医療職ですが、今回の新型コロナウイルス感染症のPCR検査で少し知名度が上がったような気がします。

当院にも3名の臨床検査技師が在籍しておりますが、新型コロナウイルス感染症のPCR検査は、原則保健所で担当することになっておりますので、当院での検査はできません。PCR検査ができる設備・環境もございません。

万が一、私たち自身が新型コロナウイルス感染症に感染してしまえば、地域医療の継続が困難となります。ただ、私たちは採血や心電図などで患者様と接することもありますし、救急外来・診察室・処置室などの入室する事もあります。その為、次のような対応をとっております。

- 1 万が一無症状のコロナ感染者がいることを想定して、マスクの着用し、アルコール消毒を徹底しています。
- 2 必要に応じて、防護服等を着用して業務にあたります。

他にも当院の感染対策委員会等を通じて、病院や地域での感染対策に務めております。



～薬剤科の感染対応～ (薬剤科 宮崎里美)

- ・薬剤部スタッフの消毒の徹底
始業時、薬の調剤前、病棟に行った後など、タイミングを決めて手洗いを徹底しています。
- ・人との距離を確保
医薬品を納品して下さる方と適切な距離を取り、できる限り短時間でを行うようにしています。
- ・在庫の確保
医薬品をいつもより少し多めに確保し、突如入らなくなっても一定期間は問題なく業務が行えるように手配しています。



- ・消毒剤の確保及び調整
従来、院内で使用していた消毒剤が入りにくくなったので、その代用品としてアルコールスプレーを各病棟・外来などに配布し保管・管理を行っています。アルコールスプレーの容器はアルコールが無くなる度に滅菌し、衛生的に使えるようにした上で補充し、使い切ったスプレーと交換しています。
- ・定期的な環境整備
毎日担当を決めて薬局内のパソコン・ドアノブ・医薬品の棚の取手などよく触る部位を消毒しています。次亜塩素酸ナトリウムを薄めた液で消毒するため手袋を着用し、換気した上で行っています。

～放射線診療科の感染対策～

(放射線診療科 岩屋正人)

新型コロナウイルスが疑われる患者さんには、PCR検査と併せて画像検査(胸部X線撮影または胸部CT検査)も実施しています。それにより肺炎の有無・肺炎の種類・重症度を知ることが可能となります。画像検査はPCR検査結果が出るまでの診断・治療の一助となる重要な医療行為となるのですが、その際、撮影に携わる放射線技師も感染の危険性から逃れることはできません。私たち放射線技師は“自身が感染しない・感染を広げない”ことを念頭において、次に掲げる感染対策のもと、万全の態勢で業務を遂行します。

- ・感染の機会を極力減らすため、撮影に携わる担当技師は1名とする
- ・担当技師は感染対策に必要な防護セットを装着する
- ・撮影後は室内・接触面・技師自身の消毒を丁寧に実施する
- ・撮影後、放射線科エリア全域の換気を実施し、撮影室の使用は1時間程度控える
- ・担当した技師は、数日間 発熱や体調不良がないか、注意深く自身を観察すること



以上のことを徹底して実施し、今後も病院全体で感染対策に取り組んでいきたいと考えております。

～栄養科の感染対応～ (栄養科 小野葉子)



衛生管理が必須の厨房ですので、今まで以上に対策を強化し、配膳は今まで同様に、下膳の際は特に食器やトレーは下膳車とは別に、バケツに入れて回収、バケツの外側全体をアルコール消毒し、蓋を開け、内側をハイターに浸け、洗浄、乾燥するという感染予防を行っています。また、職員食堂での感染予防として、一方向に向くようテーブルの配置替えを行い、椅子の数を間引くことで職員間の感染予防を行いました。

～リハビリテーション科の感染対策～

(リハビリテーション科 下山敬太郎)



リハビリの訓練は患者様と密接になってしまいます。また、外来で訓練に来られる患者様もいらっしゃるため、外部からの感染の予防も今まで以上に徹底しました。

- ① 密集を防ぐため、入院患者様の訓練はリハビリ室を使用せず、病棟内での訓練を行う。
- ② 外来リハビリの受付時間および訓練時間(リハビリ室使用時間)を短縮。
- ③ 器械器具および装置、椅子やベッドの配置を変更し距離を確保。
- ④ 対面での会話を防ぎ、やむを得ない際は、十分な距離を確保する。
- ⑤ 定期的にアルコール消毒液または次亜塩素酸ナトリウム液により清拭。および定期的な換気。

外来および病棟患者様には、時間変更、訓練場所の変更などでご迷惑をおかけしています。皆様のご協力に感謝いたします。

～おぐに老人保健施設の感染対応～

(介護職員 禿 文香)



おぐに老人保健施設では、新型コロナウイルス感染症対策として、利用者の方に感染させない予防を行っています。

まず最初に、大変心苦しいのですが、面会禁止を行っています。職員は、出勤前後の検温・手指消毒、病院から老健側へ入る際は、靴裏のアルコール消毒を徹底しています。プライベートでは各自の感染予防に努めるようにし、「施設に持ちこまない」を第1に対応しております。ショートステイ利用や通所リハビリも引き続き行っていますが、利用者の検温、体調の把握は勿論、ご家族の体調把握もさせて頂き、安全に利用して頂けるように行っています。施設内では、毎日、次亜塩素酸による環境設備、換気、手洗い、発熱の有無、体調の変化に細かい配慮を行い、利用者の方が平穏に楽しく毎日の生活を送って頂けるよう心掛けています。



先日、ご家族も心配されていると感じ、利用者の方の写真と、御家族へ、各自手紙を書いて頂きお渡ししました。その他、生活風景などを動画で撮影し、御家族に元気な様子を観て頂く試みもしています。利用者様、御家族様にも、御迷惑おかけしますが、もう暫く感染対策にご協力ください。

～訪問看護の感染対応～

(訪問看護 松原恒子)



訪問看護では、他部署と同様に自分の健康管理、体温測定、健康チェック、マスク装着、手洗い、手指消毒を徹底して行いました。また、訪問先での処置時のマスクやガウン(エプロン)の使用、訪問先の喚起も徹底しています。

一日に何カ所も訪問しますし、家族や面会の方の行き来があり、その方達の健康状態にも気をつけ、今後も感染を広めることのないよう行動しています。

ひとり暮らしの患者様の病院受診は、遠方にいるご家族が付き添うことがありますが、自粛期間中は付き添う控える家族の方もおられ、少し寂しい顔をされている利用者を見て、私たちも寂しい気持ちになる期間でもあります。

《 医師 紹介 》



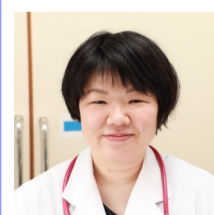
(非常勤医師)
とくなが たくや
徳永 琢也 先生
(総合診療科：整形)

2020年4月より金曜日
に、整形外科外来を担当させていただいております。
熊本大学病院では、上肢グループで主に肩関節疾患を担当しておりました。
末吉先生、舛田先生と共に小国地域の整形外科の診療にお役に立てるよう努めて参りますので、何卒宜しくお願い致します。



(非常勤医師)
まき ゆうじ
牧 雄二 先生
(総合診療科：循環器)

前任の福永崇先生から
月曜日の循環器内科外来を引き継ぎました、
熊本大学病院 循環器内科の牧雄二です。
医師6年目ですが、昨年までは済生会熊本病院の救急総合診療科に属しておりました。
至らない点多々あると思います。外来でお待たせすることもあるかと思いますが、患者さんの声を一つ一つ聞きながら頑張りますので、何卒宜しくお願い致します。



(非常勤医師)
おの かおる
小野 薫 先生
(総合診療科：代謝)

4月よりお世話になって
おります、熊本大学病院 糖尿病・代謝内
分泌科の小野薫と申します。
糖尿病を専門としており、血糖値の安定
化、合併症予防に力を入れております。今
まで培った知識や経験を活かし、小国の医
療に貢献できるよう努力していきたいと思
います。よろしくお願ひいたします。